石川県立
Ishikawa Museum of Natural History
自然史資料館
ニュースレター
No.16
2021.5

自然の情報を写真で記録

押し葉標本を台紙に貼る作業

標本資料を顕微鏡で調べる

他県の人とオンラインで情報交換

message ▶ 来たれ！ 資料館の応援団

自然史資料館の役割は、県民の皆さんに自然の魅力を伝え、さらに自然と社会のつながりを深めることです。そのための活動は、標本資料の収集・整理・調査研究から、展示や講座などの自然を学ぶ催し物の運営まで、多岐にわたります。活動を担うのは、自然史の３分野（動物、植物、地学）の学芸員をはじめとしたスタッフです。展示を作る、イベントを開催する、資料を集める、調査をする、そんな様々なことをおろそかにしないためにはスタッフが何人いても足りないでしょう。なぜなら当館の役割は、地域住民の多くの皆さんに参加してもらって、初めて十分に果たされるからです。

例えば、絶滅危惧種の展示は、絶滅危惧種の標本や写真などの資料がないとできません。学芸員がそれを全部集めるのは無理です。展示開催が決まるずっと前から、自然史資料館に自分の標本や写真を持ってきたり、目撃情報を知らせてくれたりする人たちがいるおかげで、資料が集まるのです。展示する資料は、名前が正しいかどうか確認する必要がありますし、展示に使わない資料も、地域の自然の記録として保管・整理をしなければ、将来につないでいくことができません。調査研究や資料整理も学芸員だけでできるわけではなく、信頼性の高い良い展示は、地域の自然に詳しかったり、興味を持って協力をしてくれたりする人が、周りにどれだけいるかにかかっています。他の活動も同じです。研究利用や教育普及で多くの人たちに館の資料が活用されることで、社会に役立つ自然史資料館になるのです。

当館には、資料整理ボランティアなど助けてくれる人たちがいますが、もっと多くの皆さんの応援が必要です。応援は、資料の収集、整理、調査研究、情報提供に限りません。どんな形であれ、皆さんの活動に館を利用し、周りの人に館の役割を伝えてほしいのです。そして一番ほしいのは、当館への厳しい意見と叱咤激励です。皆さんの応援でスタッフを育て、役割を果たせる自然史資料館に成長させてください。

（副館長　中野真理子）

message ▶ 館長から

いまこそ、創意と工夫を！

コロナ禍は収まるどころか、第４波がやってきました。昨年末のニュースレター15号では、「コロナの禍を転じて福と為す」、即ち「コロナという災いを新しい取り組みのきっかけにしよう。ピンチをチャンスに変えよう」と皆さまに呼びかけました。あっという間に全国でオンラインによる講演会、ワークショップ、打ち合わせが日常化しており、私もオンラインを大いに利用しています。交通費も移動時間もかかりません。国内は当たり前、国際ワークショップも簡単に実現します。昨年５月には「オープンミュージアム2020」を、ふたつのオンライン・ワークショップに切り替えました（15号参照）。不慣れでもやればできる。私は、講座の新メニュー、少数での野外観察、野外の生物や当館の収蔵物などの紹介動画をつくってホームページで公開するなど、新しい取り組みを始めようと張り切っていたのですが、ほとんど成果が出ていません。やっているのは、三密を避けるために入館者、受講者を減らし、タッチ標本の除去くらいです。「みんなでつくる自然史資料館」をスローガンにするなら、こんな時こそ、支援者の皆さまと一緒に知恵を絞り、工夫すべきです。「自然史資料館は何をやっているんだ！」と遠慮なく愛の鞭をお願いします。

（館長　中村浩二）

活動 ▶

石川県内の昆虫専門家たちとのコラボレーション

当館の主な活動には、資料の収集と保管、調査研究、教育普及などがありますが、いずれも地元の専門家や愛好家の方々による協力が不可欠です。ここでは、県内で活躍されている専門家（石川むしの会の会員）の方々の協力を得て実施している活動を紹介します。

収集された標本を適切に保管・整理するには、まず種を同定する必要があります。昆虫の場合、種数がとても多いため、作業は簡単ではありません。グループ（目または科レベル）ごとに専門家がおり、最終的にはその専門家に確認してもらわないと種類がわからないことが少なくありません。さらに、標本の数が膨大なことが多いので、それらを仕分けて標本箱に保管・整理するのも大変根気のいる作業です。例えば、故大串龍一博士によって採集された金沢城公園の鱗翅目標本の場合、同定された標本を再確認する作業や、標本をグループ（科）または採集年ごとに分けて標本箱に移し替えする作業を、石川むしの会の会員の方々に協力していただきました。おかげで、標本の整理・登録作業をスムーズに進めることができました。

大串龍一博士により金沢城公園で採集された鱗翅目標本

また、石川県内の昆虫を対象とした調査研究活動も協力して行っています。調査は単独よりも複数で協力して行う方が効率的で、研究成果も出やすくなります。「いしかわレッドデータブック2020」の作成にあたって白山で実施された昆虫調査では、白山白川郷ホワイトロード周辺や、この道路が岐阜県に抜ける峠近くにある三方岩岳など複数の場所で、石川むしの会の方々とともに調査を行いました（環境省等の許可取得済）。その結果、亜高山性の種や県内初記録の種など、貴重な標本を当館に持ち帰ることができました。他に、海浜性の絶滅危惧種の調査や県内の外来種の調査なども協力して実施しています。これからも地元の専門家や愛好家・団体と密に連携して、当館の活動を発展させていきたいと思います。

白山における調査の様子（三方岩岳にて）

（学芸員　嶋田敬介）

message　外部協力者から

自然史資料館へのお願い

「令和元年度第36回植物画コンクール募集要項（主催：国立科学博物館）」の表紙を転載

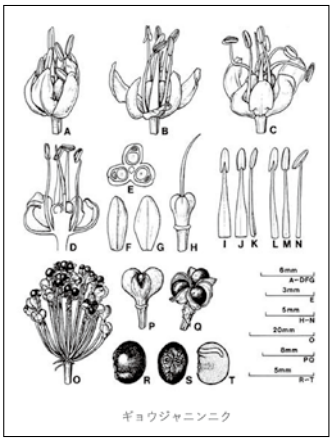
植物の形や構造を説明する絵を「植物図」といい、図鑑や雑誌、専門書などで見ることができます。この数年自然史資料館において、このような植物図の描き方を学ぶ様々な講習会を立案し講師を務めてきました。その間に地域貢献や館のことなど色々考えていました。今回良い機会をいただいたので、その中から二つのことをお願いしたいと思います。

1．　植物画コンクール開催

植物画コンクールは、国立科学博物館が始め昨年度で37回になります。毎年小学生の部、中・高校生の部で数千人、一般の部で数百人の応募があるといわれる人気の企画です。趣旨は「植物画を描くことによって、植物のすがたを正しく観察し、植物をより深く理解するとともに、植物に対する愛情を深め、人と植物のつながりにも高い関心を持っていただくことを目的とする」とあります。描画には深い観察が必要となることから、植物を理解するのに良い手段と判断されたものと思われます。他に、福岡市植物園が25回行い、高知県立牧野植物園は一昨年から始めています。公の施設ではこの三か所しかありません。開催は、自然史資料館の知名度を上げるとともに、入館者の大幅な増加だけでなく植物愛好家をも増やすことに貢献するにちがいありません。

2．　学芸員による活動報告会の開催

学芸員は、日頃どのように考え悩み調査研究をしているのだろうか。各地の博物館や植物園などで毎年行っているような報告会があれば、そんな印刷物からはわからない研究者としての生の息づかいを感じることができます。また、質疑応答などによって学芸員との距離感が縮まり、有形無形の恩恵を双方に与えると思います。公立施設における学芸員としての活動の公開は義務でもあると考えます。自然史資料館の必要性を県民に訴える良い方法ともなりますので、報告会開催を強くお願いします。



ギョウジャニンニク　図：筆者

（梅林正芳）

【プロフィール】
1976年からフリーランスのボタニカルイラストレーターとして、学術雑誌、専門書、図鑑、事典・辞典類に植物図を描く。1992～2016年金沢大学に文部技官、助教として在職。2010年に第18回松下幸之助花の万博記念賞記念奨励賞受賞。

団体係のきまぐれコラム

ベリー、グッドかバッドか

モミジイチゴ

館があるのは里山の入口。昼休みの散歩は楽しい。季節の山の幸があって一石二鳥だ。６月にはベリー類が食べ頃になる。赤い実は、鳥に食べてもらおうと色付くそうだ。美味しそうでも毒があったりするので、無闇に食べるのは良くない。そこへいくとモミジイチゴの実は、瑞々しさとほのかな甘さで悪くない。ただ、すぐ潰れてジャムにも果実酒にもならない。つまんでせっせと口へ運んでも、食べ甲斐は全く無い。コウゾの実は、モミジイチゴによく似ていかにも美味しそう。食べると確かにうまいが、何か変だ。口の中にいつまでも不快な感じがする。小さな何かが、口腔粘膜のあらゆる所、歯の表や裏にも貼り付いているではないか。ぐわっ、一体これは何だ！

実に生えている毛が原因だったが、後の祭り。もう二度と食べねぇぞ。これを嫌な奴に黙って喰わせると、すっとするだろう。そういう意味ではベリー、グッド。

イラスト：筆者

（教育普及　石丸信一）

topic

クマっちゃうな、熊が出た

職員用防衛策

ついに出てしまいました。熊が。館の入り口から23歩の所に。昨年10月31日朝、進入路脇の果樹園で、柿の木がぼっきり折れているのを発見。がりりと刻まれた爪痕は、まさしく熊です。昨秋は熊の出現が相次ぎ、人身事故も起きていました。当館周辺は山がちなので、出たとの話は、何年も前からありました。町内の川原にいたとか、今ハンターが出ているからその道は行くなとか。でも、構内同然の所となれば、他人事ではすみません。熊を呼び込まないように、玄関の自動ドアは即閉鎖。お客様には手動扉から入館していただきました。職員が帰る頃は真っ暗なので、職員玄関に手製の熊おどしを置いて用心しました。何事も無かったのは幸いでしたが、１週間後には、館から徒歩20分の住宅地で男性が足を噛まれ、その２日後にはご近所の施設で、職員の方が出会い頭に大怪我を負う事件が発生。館の熊と同じ個体かもしれません。冬になって熊禍は終息。今はコロナ禍です。

（教育普及　石丸信一）

熊の鋭い爪痕

ツキノワグマ

お知らせ

夏休み特別企画

すごいじぃー！夏休みの自然史資料館

かんたん工作 あり　体験講座 あり　ミニ講演会 あり　野外観察会 あり

会期：2021年 7月10日㊏～8月31日㊋

昨年開催した夏休み特別企画「すごいじぃー！夏休みの自然史資料館」を今年も開催します。今年の夏休みはどんなイベントを行うかはお楽しみに！

夏休みが近づいたら、資料館のHPをご確認ください。

（学芸職員　髙内香）

「相談会」のチラシ
（2020年８月）

昨年の「キリギリスの観察会」の様子

利用案内

開館時間 ／ ９：00～17：00（入館は16：30まで）　**入 館 料** ／ 無　料
休 館 日 ／ 12月29日～１月３日　**駐 車 場** ／ 完　備（大型バス駐車可）

交通案内

《バスをご利用の場合》
金沢駅東口バスターミナル

『12 湯涌温泉ゆき』または
『12 北陸大学薬学部ゆき』または
『12 北陸大学太陽が丘ゆき』
→【銚子口下車】→徒歩約10分

『95 北陸大学太陽が丘ゆき』または
『95 北陸大学薬学部ゆき』
→【北陸大学太陽が丘下車】
→徒歩約10分

石川県立自然史資料館
〒920-1147　石川県金沢市銚子町リ441
TEL：076-229-3450　FAX：076-229-3460　https://www.n-muse-ishikawa.or.jp/